

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

福山市立東中学校区	校番 10	福山市立旭小学校
最終更新日		2026年(令和8年) 4月1日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の年齢層を踏まえた取組みを進め、4校での合同研修の中で議論を深め課題共有してほしい。 ・CSを進め、地域人材バンクや地域教材発掘を目指してほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <p>校区で共通して行っている話し合う活動を通じて、授業中に考えを深めたり広げたりしている意識は高まっているが、基礎的な学力定着をさらに図る必要がある。</p>	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見・解決力、表現力、自他の尊重</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子</p> <p>全教職員が2つの部会に所属し、授業研究と実践交流を行う。 ①授業改善・ESD部会 ②特別支援・長欠ゼロ部会</p>
--	---	--	--

III 自校

学校教育目標
自ら考え 共に輝く

現状
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと意見交流することを通して、考えを深めることができた実感する児童は90%を超える。 ・各委員会がプロジェクト活動を計画・実施することで、参画意識が高まった。 ・外遊びの時間を確保することで、体を動かすことが好きな児童が増加した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」においては国・算共に定着しているが、「思考力・判断力・表現力」を高めるためには、更に授業改善が必要である。 ・児童の自己肯定感を高める評価の場の設定や教師の見通し声掛けが不十分であった。 ・基本的な生活習慣を意識することはできているが、動画視聴・ゲームの時間が長い児童もいる。

育成する資質・能力	課題発見・解決力 課	表現する力 表	自他の尊重 尊
	自ら課題を見つけ解決する	自分の考えを他者にわかるように伝える	自分を高め他者を高める
めざす子ども像	低学年	○課題を見つけ、興味・関心をもって追究している。	○友だちと話し合うことで、考えを深め、伝えようとしている。
	中学年	○自ら課題を見だし、見いだした問題を興味・関心をもって追究している。	○ペア学習・グループ学習・全体交流で相互に話し合う中で、学びを深め、表現している。
	高学年	○自ら課題を見つけ、生活経験や学習経験を基に、見通しを持って追究する学び方を身につけている。	○ペア学習・グループ学習・全体交流で相互に話し合う中で、論理的表現力を高めている。
研究	テーマ	「はてな?」「なるほど!」学びを楽しむ授業の創造 ～全員参加の協働的探究活動のある授業の追究～	
	内容等	①「フレームリーディング」の手法を取り入れた授業への改善 ②基礎学力の定着 ③言語技術指導	
めざす授業の姿	自らの解釈をより高めていくために、必要に応じて仲間と情報交換(仲間とフレームを共有)し、協働的な学びを創ろうとする姿。		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立旭小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
5	こども主体の授業を通して、学びを楽しむ児童の育成	★	継続	全員参加の協働的探究活動のある授業を創ることで、児童が学びを楽しみ自らの手で学びを進めたり深めたりしていくことができる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 一人年間2本授業研究・公開し協議することで、自らの実践を振り返る機会をもつ。ポートフォリオを活用し、「見通し」と「見取り」の精度を上げ、系統をふまえた効果的な手立ての共有を行う。 学力保証を図るため、帯タイム等に学力補充や言語技術指導を行い、定着が不十分な内容は、家庭学習も活用し計画的に取り組ませる。 教員一人一人の力量を高め学びの楽しさをこどもが実感できる授業を目指すため、校内研修に講師を招聘したり研修会へ積極的に参加したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善によって「(こども主体の)学びを楽しむ授業ができた」の肯定的評価児童・教職員共に90%以上。 国語科・算数科の学期末テストでの「知識技能」「思考」共に正答率60%以上の児童85%以上。 								
3	社会に貢献する児童の育成		継続	異学年を巻き込んだ児童会活動に参加することで、友達や学校等、誰かのために進んで行動できる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト活動の内容の充実を図るとともに、表彰等で自己肯定感を高める取組を行う。 代表委員会で学校の課題を出し合い、学級で自分たちができる取組を考えていくことで参画意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学級や学校のために役に立っている」と感じる児童85%以上。 								

3	健康的な生活を考える児童の育成	継続	<p>基本的な生活習慣や運動を意識し、実践できる児童を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロングタイム休憩を設定し、体を動かす時間を確保する。 ・生活習慣「7つの目標」シートやパワーアップカードを活用し、基本的な生活習慣、運動の意識づけを行う。 ・メディアコントロール週間を設定し、使用時間を1日2時間以内にする。 ・取組や結果を保護者に周知し、家庭を巻き込んで意識を継続できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが楽しいと感じている児童85%以上。 ・睡眠、ゲーム・動画視聴等の時間を意識して規則正しい生活を実践できた児童70%以上。 							
1	教職員が元気で児童に向き合える学校づくり	新規	<p>教職員が子ども向き合う時間や教材研究の時間を確保し、やりがいや達成感を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修等による授業の充実を通して、教職員のやりがいや達成感を高める。 ・業務の見える化を行うことで、効率よく業務に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事にやりがいを感じている教職員90%以上。 							

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。